

## 第1期東海村スポーツ推進計画(総括シート取りまとめ)

① 第1期計画の5年間で、本村のスポーツを取り巻く環境が良くなった(ならなかった)と感知ること	区分
茨城国体の開催等により、スポーツに対する考え方もより深いものとなり、スポーツ環境も整備され、幅広い年代の方がスポーツに興味関心をもって楽しめる機会が増えたと感じた。	意識
特に、親子参加型スポーツは家族の絆をより一層深めることができ、家族内の会話も増え、家庭環境をとても明るくするものになった。	意識
イベント開催が増えたことで各世代の参加者が増えているように思う。	イベント・教室
総合型地域スポーツクラブスマイルTOKAIの各種教室などソフト事業による改善が認められる一方、総合体育館の老朽化やスポーツ施設の不足等、ハード事業の遅れがスポーツへのモチベーション低下に繋がっていないか。	イベント・教室、施設
スポーツ施設(コミセン等)が予約しやすくなったという声を聞くようになった。スポーツする場所が確保できる＝スポーツの継続に繋がるので、環境は良くなっていると思う。	施設
運動場や公園の整備が進んでおり、村民の運動参加に貢献している。	施設
久慈川河川敷運動場や阿漕ガ浦公園の整備等、高齢者から幼児まで誰でも体を動かせる環境が整ったことで、運動する機会が多くなった。絆の多目的広場では高齢者が毎日グラウンドゴルフをしたり、子どもたちもサッカーなどを楽しんでいる。	施設
中学校部活動に対する外部からの指導が好成績に繋がったのは良かった。	実績
小学校ではスポーツ少年団や子ども会球技大会の充実、中学校では部活動の外部指導者の充実等により、小中学生がスポーツに関わる機会と技能や態度のレベル向上が図られている。	実績
コロナの影響は大きかったと言わざるを得ない。スポーツイベントや中学校部活動の停止等、スポーツをする機会の喪失など誰も予想できなかった。	機会
障がい者のためのスポーツ推進事業が足りなかった。パラリンピックを通して普及啓発が進んだが、今後も継続していくことが必要。	機会
スポーツ関連の行事や利用できる場所が増えたが、住民への情報発信は十分ではなかった。	情報発信

② 本村のスポーツ推進事業の課題または期待すること	区分
【課題】	
親子の参加はしやすいが、その上の世代の参加がもう少し増えたら盛り上がるのではないかなと思う。	対象
人の発達や運動能力に合わせてスポーツすることができる「アダプテッドスポーツ」を取り入れてみるのも面白い。ファミリーバドミントン、ショートテニス、風船バレーなどの種目があるが、障がい者だけでなく子ども、高齢者、体力が少ない方、運動が苦手な方もできるスポーツなので、今後村内のスポーツイベントで体験ブースを設置してみるのも良い。	対象
障がい者と健常者の合同スポーツイベントの実施は、介護ボランティア団体、医療スタッフの連携がとても重要であり、コロナ感染対策を取りながらなので、とても難しい課題になる。	対象
小学校低学年や運動に苦手意識を持つ方々をいかに興味を持たせて楽しませるか。	対象
全国的な「スポーツ嫌い」の子ども(特に女子)への働きかけ。	対象
スポーツ無関心層への働きかけ。	対象
部活動等の時間短縮やスポーツ少年団の合同化などスポーツをする環境の制限。	環境
小中学校では一人1台タブレット端末が導入され、運動不足との関連が心配されている。	環境
ヘルスロードが設置されているが、コース周りに竹藪や耕作放棄地が多いため、環境整備を検討すべき。私有地も多いことと思われるが、公費投入、ボランティア育成などを通して史跡整備とともに推進していくことが、住みよい街づくりにも繋がる。	環境
中学校部活動の地域移行において、スポーツをする楽しみを享受する大切な年代である中学生の機会をより多く作れるよう、行政や関係団体等のより一層の連携が必要。	環境
一部の発言できる環境の方の声が中心となりがちな状況。日常生活から聞こえてくる声に耳を傾けて、固く考えがちなこと簡素化して進めてもよい。	体制
スポーツを通して「村民の健康」と「笑顔あふれるまちづくり」のため、住民の声に耳を傾け、問題点を抽出していくことが必要。	体制
自治体内・間の横の繋がりを強化していくことがスポーツ推進事業には重要。	体制

【期待】	
運動が苦手な方に対して、「ちょっと行ってみよう！」と思える「きっかけづくり」が出来れば良い。	対象
児童・生徒及び高齢者が分け隔てなく一緒に運動・スポーツが出来る環境づくり。	対象
東海村オリジナルニュースポーツ「イモゾーリレー」のPR。	イベント・教室
「スポーツフェスタTOKAI」等を通して、子どもから高齢者、さらには障がいのある方も含めてスポーツに親しむことができる環境の整備。	イベント・教室
「イモゾーリレー」は小中学校の運動会や体育祭等でも取り上げられ、盛り上がりを見せた。村オリジナルニュースポーツとしてさらにPRし、村民がより一層楽しくスポーツに親しめるようになるとうい。	イベント・教室
阿漕ヶ浦公園を拡張・整備し、総合運動公園化し活用したい。	施設
舟石川近隣公園のような、ゆるやかで遠くから目配りできるような運動環境があるとよい。	施設
これまで「スポーツを楽しむきっかけづくり」を行ってきたので、次は「スポーツを継続できる環境づくり」に期待する。	環境
スポーツがより身近に感じられる環境を整備し、たくさんの方がスポーツを楽しく気軽に始められるようになるとうい。	環境
休日部活動の地域クラブへの移行が令和5年度から始まる。活動内容や運営方法が参加する中学生のスポーツに対する願いや期待に叶う内容にしていきたい。	環境
ゆくゆくは、総合型地域スポーツクラブスマイルTOKAIの協力を得て、皆で運営していく姿が理想。スポーツを「する」「見る」「支える」環境が整備されれば、何歳になってもスポーツに携わることができる。そしてそれは高齢者の生きがいにもつながる。	体制
さらに多くの事業を具体化するため、総合型地域スポーツクラブスマイルTOKAIの存在意義。	体制
子どもたちのスポーツ環境を向上させることが東海村の若い世代の人口増加に寄与することに繋がる。	まちづくり
スポーツ推進事業の各地区(コミセン単位)への展開等、スポーツを有効活用すれば、「スポーツフェスタTOKAI」のように、東海村の「まちづくり」を発展させるためのツールになり得る。	まちづくり

### ③ 第2期計画の策定に向けた意見・要望

目先の目標にとらわれず、長く続けられるような内容で進めていきたい。	目標
第1期計画の施策3-③で触れられている「スポーツのまち 東海村」とは何を目標とするのか、具体的なイメージについて多くの人に共有していただけるよう、議論していきたい。	目標
「事業」として固く難しくするのではなく、「誰もが入りやすい」間口にすることも大切。	環境
運動が苦手な方でもスポーツフェスタのような人が集まる所に足を運んでいただければ、健康→仲間づくり→運動→継続に繋がると思う。	環境
全ての人が、望むときにいつでも、色々な運動・スポーツを行うことができるよう、ハード及びソフトの環境づくりに取り組んでいくことが必要。	環境
委員会の開催形態のひとつとして、スポフェス等イベント参加や先進地域の視察等も検討してはどうか。	体制
「スポーツフェスタTOKAI」のように、東海村の「まちづくり」を発展させるためのツールとしてスポーツを位置づける。	まちづくり
第1期計画の策定・推進に際して、スポーツ関係者相互、さらにスポーツ関係者以外の方々も含めた意見交換の場が足りなかった。スポーツ推進は村づくりに貢献できる。スポーツ(散歩などを含めて)を通じた村民の交流は、相互理解の土台になる。委員会内での意見交換に留めず、広く深く議論していくことが必要。	まちづくり